

生活に結び付いた教科別の学習を目指して

教頭 佐藤 宏充

今年の夏は、私の体感の中で、最も暑い夏だったように思います。スマートフォンには、「極めて危険、外出は控えて運動は中止を」の通知が届く日が続きました。また、「地球温暖化」を超えて、「地球沸騰化」という言葉をテレビで耳にして、強烈に印象に残った夏になりました。

さて、今年度、当校では、教育課程を見直して、教育活動をスタートしました。小学部では「国語」「算数」「生活」、中学部では「国語」「数学」、高等部では「国語」「数学」「情報」といった教科別の学習を時間割に位置付けて取り組んでいます。教科別の学習というと、特に「国語」「算数・数学」では、机上学習というイメージをもつ人も少なくないと思います。知的障がいのある児童生徒の学習上の特性として、学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場面の中で生かすことが難しいことが挙げられます。そのため、実際の生活場面に即しながら、繰り返して学習することにより、必要な知識や技能等を身に付けられるように継続的、段階的な指導が重要であるとされています。また、抽象的な内容の指導よりも、実際的な生活場面の中で、具体的に思考や判断、表現できるようにする指導が効果的とも言われています。このことから、単に机上学習にとどまるような教科別の学習をするのではなく、生活に結び付いた具体的な活動を学習活動の中心に据え、実際的な状況下で学習する教科別の学習に取り組む必要があると考えます。

また、昨年度から完全実施となった特別支援学校学習指導要領の改訂のポイントとして、「学びの連続性」がキーワードとして挙げられています。学習指導要領では、各教科等の目標や内容が段階別に示され、幼稚園や小・中学校とのつながりにも留意した構成になっています。学習指導要領に記載されている各教科等の目標や内容から、身に付けるべき内容を明確に定め、教科別の学習において着実に学習を積み重ねていくことが、子供たちの確かな成長のために大切であると考えます。

新潟県内の知的特別支援学校で、当校のような教科別の学習を取り入れ、授業実践している学校は、まだ少ないです。そういった点からも、当校の今年度の取組は先進的な取組になるのではないかと思います。2学期も、机上学習にとどまらない生活に結び付いた具体的な活動を中心に据え、実際的な状況下で学習することを大切にしながら、職員一同、教育活動に取り組んでまいります。保護者の皆様におきましては、引き続き、当校の教育活動により一層のご支援とご協力を何卒よろしく願いいたします。

発達障害通級指導教室の紹介

当校の発達障害通級指導教室について

当校の通級指導教室は、新潟市内小中学校の通常の学級に在籍する児童生徒を対象にしています。

「読む」「書く」「話す」「聞く」「計算する」「推論する」などの学習における困難さや他者とのかかわりの困難さについての、改善・克服を目指す教室です。

毎年当校で開催される『特別支援教育研究会』において、全国に授業を公開しています。

新潟大学の附属校として、教育の理論の研究、大学生・大学院生等への講義等も行っています。

当教室について

● 自分に合った学び方 ●

様々な学び方の中から、自分に合った学び方を見付け、**在籍校の中で自信をもって、意欲的に学び続けることができるように**、子どもと対話し、学び方を探りながら取り組みます。指導は、基本的に個別指導で行います。



Bear Room

● 実際のなかかわり ●

集団の中でのかかわりや、行動の仕方について学び、**人とかかわることへの自信や意欲が高まるように**、実際のなかかわりを引き出す活動に取り組みます。指導は、グループ指導と個別指導を組み合わせて行います。



Together Room

教室の経営方針について

前向きな「思い」の育成

☞ 自己肯定感を高め、自ら進んで取り組む意欲や態度を育てながら指導や支援を行います。



在籍校・家庭との連携

*年2回程度、支援会議を開催します。

☞ 本人の思いや、在籍校や家庭における教育的なニーズを受け止め、保護者や在籍校担任や特別支援教育コーディネーターと連携して、共通理解のもと指導を行います。

計画的な指導の実施

☞ 保護者・在籍校・通級担当者間で個別の指導計画を作成し、計画的に目標や支援を見直して改善を図りながら指導に当たります。

当教室の募集について

当教室の募集は、年1回、12月～1月頃に行います。
募集要項については、当校のホームページよりご覧いただけます。
市内の小中学校には、募集にかかわる案内文書を送付いたします。

☞当校ホームページ

☞昨年度の通級の実践

